

課題別研修

－暴力行為防止パッケージ H28事例－

○以下の語は（ ）内を意味する
S S E（ソーシャルスキル教育）

暴力行為事例（小学校）

1 A男（4年生）は、2年生進級時から父親の実家近くに転居し、現在の小学校に転入してきた。
2 就学前から日常的に落ち着きがなかったことなどの引き継ぎが転出校からあり、転入直後から友
3 達とのトラブルが頻発した。3年生の1学期末には、担任が学年主任、生徒指導担当、養護教諭、
4 管理職などと相談し、A男を専門機関で受診させるよう保護者懇談で勧めたが、家族の同意が得
5 られず受診には至らなかった。

6 4年生になっても、A男は友達への関わり方に適切でないことが多く、友達に話しかけたい時
7 に背中を強く叩いて呼んだり、大勢が話をしている輪の中に強引に入って話を中断させたりする
8 ことが度々あった。そのため、同級生はA男に関わることを敬遠するようになり、徐々にA男は
9 孤立するようになった。

10 5月中旬の昼休み、A男が図書室前を通りかかったところ、同じ学級の児童数名が頭を寄せて
11 一冊の本を読んでいた。A男は興味が湧いて、図書室に入り、児童たちの間に「なに～？なに～？
12 見せてやあ。」と大きな声で割り込んでいった。その様子を見ていた図書館司書は「静かに読み
13 ましょうね。」と注意した。児童たちは「A男のせいで注意されたなあ。もう止めようやあ。」
14 と言いながら不満そうに図書室を出て行った。A男は、注意されたことと、本を見せてもらえな
15 かったことに腹を立て、図書館司書に「おめーが静かにしとけー！」と怒鳴って出て行った。

16 A男は教室に帰ったが、昼休み中で賑やかな学級の様子に更に腹が立ち「やかましーんじゃ！」
17 と怒鳴り、近くの机やイスを蹴り倒して自分の席に座った。周りの児童は、驚きながらもA男に
18 呆れて片付けていたところ、先ほどの児童たちが楽しそうに教室の前から入ってきた。

19 それを見たA男は、突然その児童たちに向かって行き「おめーらがわりーんじゃ！」と怒鳴り
20 ながら児童たちの先頭を歩いていたB男の胸ぐらをつかみ、素手で顔を1回強く叩き、B男が倒
21 れたところを足で腹部を3回強く蹴った。そこに給食の片付け指導から帰ってきた担任が、間
22 に入って二人を離そうとしたが、A男は担任にも殴りかかろうとする勢いで暴れた。

23 担任とA男がつかみ合って騒然としているところに複数の教員が駆けつけ、二人を引き離し、
24 A男を相談室に、B男を保健室に連れて行き、複数の教員でA男が落ち着くまで対応した。

25 担任は職員室で、教務主任と生徒指導担当に状況を説明した。生徒指導担当は、重大な暴力事
26 案と判断し、管理職に連絡をして緊急の生徒指導委員会を開いた。そして、その会の中で次のよ
27 うに、具体的な対応を確認した。

28 1 学年主任はB男の保護者に連絡して状況を説明し、受診の許可を取り、病院に行ってもら
29 う。

30 2 担任はB男の対応をしている養護教諭とともに病院に急行し、B男の保護者と合流して状
31 況の説明をする。具体的な対応については追って連絡することとを伝え、即答を避ける。

32 3 生徒指導担当を中心に、何名かの教員で図書館司書と状況の分かる児童から同時に個別の
33 聞き取りをする。聞き取った情報は生徒指導担当と管理職に報告し、情報共有する。

34 4 教頭は児童の動揺を抑えるよう教室で学級指導に当たる。

35 5 A男の保護者にも連絡し、来校してもらう旨を伝える。

36 その後、担任と生徒指導担当を中心にA男とその保護者、B男とその保護者に対応し、学級で
37 の事態の收拾を複数の教員で行い、その日のうちに対応した。

38 しかし、今のままでは同じことが何度でも起こってしまうと懸念した教務主任は、学級活動で
39 友達との関わり方を学ぶS S Eや、怒りの感情をコントロールできるようになるためのアンガー
40 マネジメントに取り組むこと、また、様々な機会の子供同士が互いに協力して活動する場面を設
41 定することを提案した。

42 その後、徐々にではあるが、他の児童がA男に話しかけるようになり、休憩時間には運動場で
43 みんなと一緒に楽しそうに遊ぶA男の姿が見られるようになった。A男は依然として自分の思い
44 を上手に伝えることが苦手であるが、徐々に感情をコントロールできるようになり、イライラし
45 ても暴れることは少なくなった。

課題別研修

－暴力行為防止パッケージ H28事例－

○以下の語は（ ）内を意味する
S S E（ソーシャルスキル教育）

暴力行為事例（中学校）

1 A（2年生）は、中学校進学に合わせて父親の実家近くに転居してきた。小学生の時から日常的に落ち着きがなかったことなどの引き継ぎがあり、入学直後から同級生とのトラブルが頻発した。1年生の1学期末、担任は学年主任、生徒指導主事、養護教諭、管理職などと相談し、Aを専門機関で受診させるよう保護者懇談で勧めたが、同意が得られず受診には至らなかった。

2 2年生になってもAは友達への関わり方に適切でないことが多く、友達に話しかけたい時に背中を強く叩いて呼んだり、大勢が話をしている輪の中に強引に入って話を中断させたりすることが度々あった。そのため、同級生はAに関わることを敬遠するようになり、Aは徐々に孤立するようになった。

3 5月中旬の昼休み、Aが図書室前を通りかかったところ、同じ学級の生徒数名が頭を寄せて一冊の本を読んでいた。Aは興味が湧いて、図書室に入り、生徒たちの間に「なにになに～？見せてやあ。」と大きな声で割り込んでいった。その様子を見ていた図書館司書は「静かにしなさい。」と注意した。生徒たちは「Aのせいで注意されたあ。もう止めよう。」と言いながら不満そうに図書室を出て行った。Aは注意されたことと、本を見せてもらえなかったことに腹を立て、図書館司書に「おめーがだまっとけー！」と怒鳴って出て行った。

4 Aは教室に帰ったが、昼休み中で賑やかな学級の様子に更に腹が立ち「やかましーんじゃ！」と怒鳴り、近くの机やイスを蹴り倒して自分の席に座った。周りの生徒は、驚きながらもAに呆れて片付けていたところ、先ほどの生徒たちが楽しそうに教室の前から入ってきた。

5 それを見たAは、突然その生徒たちに向かって行き「おめーらがわりーんじゃろーがぁ！」と怒鳴りながら、生徒たちの先頭を歩いていたBの胸ぐらをつかみ、素手で顔を1回強く叩き、Bが倒れたところを足で腹部を3回強く蹴った。5時間目の授業の準備のため早めに教室にやってきた教科担任が事態に気付き、間に入って二人を離そうとしたが、Aは教科担任にも殴りかかろうとする勢いで暴れた。

6 教科担任とAがつかみ合って騒然としているところに複数の教員が駆けつけ、二人を引き離し、Aを相談室に、Bを保健室に連れて行き、複数の教員でAが落ち着くまで対応した。

7 教科担任は、職員室で、担任と生徒指導主事に状況を説明した。生徒指導主事は、重大な暴力事案と判断し、管理職に連絡をして緊急の生徒指導委員会を開いた。そして、その会の中で次のように、具体的な対応を確認した。

8 1 副担任はBの保護者に連絡して状況を説明し、受診の許可を取り、病院に行ってもらおう。

9 2 担任はBの対応をしている養護教諭とともに病院に急行し、Bの保護者と合流して状況の説明をする。具体的な対応については追って連絡することを伝え、即答を避ける。

10 3 2年団教員と生徒指導主事は図書館司書と、状況の分かる生徒から個別に聞き取りをする。聞き取った情報は生徒指導主事に報告し生徒指導委員会で、情報共有する。

11 4 副担任は生徒の動揺を抑えるよう教室で学級指導に当たる。

12 5 Aの保護者にも連絡し、来校してもらう旨を伝える。

13 その後、担任と副担任を中心にAとその保護者、Bとその保護者に対応し、学級での事態の收拾を複数の教員で行い、その日のうちに対応した。

14 しかし、今のままでは同じことが何度でも起こってしまうと懸念した学年主任は、学級活動で友達との関わり方を学ぶS S Eや、怒りの感情をコントロールできるようになるためのアンガーマネジメントに取り組むこと、また、様々な機会の子供同士が互いに協力して活動する場面を設定することを提案した。

15 その後、徐々にではあるが、他の生徒がAに話しかけるようになり、休憩時間には学級で楽しそうに話しをしているAの姿が見られるようになった。Aは依然として自分の思いを上手に伝えることが苦手であるが、徐々に感情をコントロールできるようになり、イライラしても暴れることは少なくなった。

課題別研修

－暴力行為防止パッケージ H28事例－

暴力行為事例（高等学校）

○以下の語は（ ）内を意味する
H R（ホームルーム）
L H R（ロングホームルーム）
S S E（ソーシャルスキル教育）

1 A（２年生）は、出身中学校から日常的に落ち着きがなかったことなどの引き継ぎがあり、入
2 学直後から何度も同級生とトラブルを起こして特別指導を受けていた。１年の２学期末、担任は
3 学年主任、生徒課長、養護教諭、管理職などと相談し、専門機関での受診を保護者懇談で勧めた
4 が、家族の同意が得られず受診には至らなかった。

5 Aは友達への関わり方に適切でないことが多く、友達を呼ぶ時に背中を強く叩いたり、大勢が
6 話をしている輪の中に強引に入って話を中断させたりすることが度々あった。そのため同級生は
7 Aに関わることを敬遠するようになり、Aは孤立するようになっていた。

8 ５月中旬の昼休み、Aが図書室前を通りかかったところ、同じH Rの生徒数名が頭を寄せて一
9 冊の本を読んでいて、Aは興味を湧いて、図書室に入り、生徒たちの間に「なにそれ～？見せて
10 やあ。」と大きな声で割り込んでいった。その様子を見ていた図書館司書は「静かにしなさい。」
11 と注意した。生徒たちは「Aのせいで注意されたあ。もう止めようやあ。」と言いながら不満そ
12 うに図書室を出て行った。Aは、注意されたことと、本を見せてもらえなかったことに腹を立て、
13 図書館司書に「おめーがだまっとけー！」と怒鳴って出て行った。

14 Aは教室に帰ったが、昼休み中で賑やかな教室の様子に更に腹が立ち「やかましー！」と怒鳴
15 り、近くの机やイスを蹴り倒した。周りの生徒は、驚きながらもAに呆れて片付けていたところ、
16 先ほどの生徒たちが楽しそうに教室の前から入ってきた。

17 それを見たAは、その生徒たちに近付きながら「おめーら腹立つんじゃ！」と怒鳴り、ひとき
18 わ強く近くの机を蹴った。机は生徒たちの先頭を歩いていたBの脚に強く当たり、Bは苦痛でよ
19 ろめき倒れた。Aは倒れたBに馬乗りになって殴りかかった。その時、５時間目の教科担任のC
20 教諭がやってきて事態に気づき、すぐに二人を引き離そうとしたが、AはC教諭にも殴りかかろ
21 うとする勢いで暴れた。

22 C教諭とAがつかみ合って騒然としているところに複数の教員が駆けつけ、二人を引き離し、
23 Aを静かな別室へ、Bを保健室へ連れて行き、複数の教員でAが落ち着くまで対応した。

24 C教諭は職員室で、担任と生徒課長に状況を説明した。生徒課長は、管理職、学年主任、学年
25 の生徒指導担当者を集め、具体的な対応を確認した。

26 1 副担任はBの保護者に状況を説明し、受診の許可を取り、病院に行ってもらおう。

27 2 担任はBの対応をしている養護教諭とともに病院に急行し、Bの保護者と合流して状況の
28 説明をする。具体的な対応については追って連絡することを伝え、即答を避ける。

29 3 学年主任はAから、その他の学年団教員は手分けをして、状況の分かる生徒から個別に聞
30 き取りをする。聞き取った情報は生徒課長が集約し整理した後、関係教員と情報共有する。

31 4 副担任は生徒の動揺を抑えるよう教室で指導に当たるとともに、気になる様子の生徒がい
32 れば、生徒課に報告するとともに、呼び出して話を聞く。

33 5 Aの保護者にも連絡して状況を説明し、放課後來校してもらう旨を伝える。

34 一連の対応をした後、Bとその保護者への連絡対応や支援は担任や学年団中心で継続的に行う
35 こと、Aに対しては今後も学校生活を継続させることが前提の特別指導を行うことが生徒課会議、
36 職員会議を経て決定した。

37 Aに対する今後の指導を検討する中で、学年主任は、今のままでは同じようなことが何度でも
38 起こってしまうと懸念し、Aへの個別支援として教育相談を継続するとともに、L H R等におい
39 て、怒りの感情をコントロールできるようになるためのアンガーマネジメント、仲間との関わり
40 方を考えるS S Eや、ピア・サポート等の実施を提案した。

41 生徒課や教育相談課等が連携し、特別指導後もA個人や集団への取組を継続した結果、同じH
42 Rの生徒とAが楽しそうに話をしている姿が見られるようになった。Aは依然として感情のコン
43 トロールが難しいときもあるが、周りの生徒の受け入れようという雰囲気には支えられながら、徐
44 々に自分の思いをうまく伝え、集団になじむようになった。